

書評

医療現場で働く 管理職1年目の教科書 あなたの悩みに答える24ケース



- 著 小西竜太
- 定価 本体 2700 円＋税
- 発行 メディカル・サイエンス・インターナショナル

評者

オフィス KATSUHARA 代表
勝原裕美子

「管理」の基本が網羅された 幅広い視点が身につく1冊。

医療専門職は、その専門性を軸にキャリアを積んでいく。わずかな例外を除き、ほとんどの人が、専門性を高めることや専門領域を広げることに関心を持ってキャリアを歩む。

しかし、ある時期、「管理職」という選択肢が生まれる。予期していた場合もあれば、突然のこともあるだろう。いずれにせよ、新たな役割を自己同一化していく過程には、さまざまな葛藤が生じる。さらに、役割取得後も、スタッフと上司との間で「うまくやる」ことの中で試行錯誤は尽きない。

書店に立ち寄れば、その解決になるようなヒントが書かれた本はたくさんある。だが、たくさんありすぎて、どれから手に取ればよいかわからない。本書は、医療現場で管理職になった人が最初に手にし、「管理」の基本的な考え方をを知るための、まさに“教科書”である。

紹介されるケースの「多様性」

手に取ってめくってみると、まずケースの多様性に驚く。その多様性には2つの意味がある。1つは、扱う内容が広範にわたるということだ。24のケースは、対人関係スキル、組織行動スキル、課題達成スキル、病院経営スキル、自己管理スキルの5つスキルセットから成っている。管理者として抱えやすい課題の多くは、これら5つのどれかに当てはまる。そのため、どこから読んでも示唆が得られる。

もう1つは、ケースに登場する職種の多様性だ。著者は医師であり、急性期病院の経営戦略室室長として病院全体の経営を見る立場にもあり、さまざまな職種が日々奮闘している様子をよく知っている。だから、医師や看護師はもちろんのこと、薬剤師、放射線技師、栄養士などさまざまな職種が主人公となってケース

が仕立てられている。管理者の困り事は、ある特定の職種にだけ起こることではなく、誰にでも起こりうる。医療現場は、これまで以上にチームとして課題に向き合うことが前提になっている。他職種の話だと済まされることなく、自分の職場で同様のことが起きたらどうするかを考えることも大事だ。さらに、他の管理者が困っているときに、その同僚をサポートする立場として、自分はこの事例をどう考えるかという視点があっていい。

分かりやすい理論の解説

本書の特徴の2つめは、ケースの解説が分かりやすいということだ。MBA（経営学修士）やMHA（医療経営学修士）のコースで教わるような基本的な理論を使ってケースの解説がされている。難しい言い回しをできるだけ避け、身近な例をいくつも引き合いに出しながら管理の現象を読み解いてくれている。

なんだかよく分からずに対応してきたけれど、こういう理論を知っていれば助かる！そう思えるような理論の解説が、簡潔で明瞭だから、さわやかに読み進められるし、いっぺんにたくさん学べるお得感がある。

「1年目」以外の管理者にも

本書には、管理の基本的なことが網羅されているので、読めば、もっと勉強したくなるかもしれない。そういう人のために、スキルチェックリストが用意されているし、引用文献には、著者のコメントが書かれている。それを読むだけでも、次にどんな本を手にとろうかと楽しみにもなる。

管理職1年目だけでなく、基本的な管理の考え方を学びたい人にお薦めの本だ。